

周位の傾向が見られた。また種類によって花の各器官の維管束に接着、沿着または退化などを起しているのが見られる。*Lepidobotrys staudtii* と *Linum usitatissimum* では 1 つの葉隙から各々独立の 3 本の維管束が萼片に入るが、多くのものは側脈は隣りの萼片の側脈と合着している。また 1 部のものは側脈は花卉の維管束と合着している。*Radiola linoides* では 1 つの葉隙から 1 本の維管束がでて中脈と側脈とに分れる。*Durandea* spp., *Hugonia planchoni*, *Philbornea magnifolia* では萼片に入る維管束は異なる段階で中央維管束から分岐してきて、らせん配列の傾向を示している。花卉は各々 1 本の維管束が入る。

Cathartolinum aristatum, *Hesperolinon alatum*, *H. micranthum* では花卉の内側に維管束をもたない付着体がある。これらの種類と *Nazera cathartica*, *Radiola linoides* では花卉は基部で雄蕊筒と合着している。花卉の維管束は各々独立しているか萼片の側脈と沿着している。雄しべは基本的には 10 本であるが、*Ixonanthes* では 15 本である。花卉と対をなす雄しべには退化の傾向が認められる。雄しべの配列には *diplostemonous*, *obdiplostemonous*, *haplostemonous* のものが見られた。花盤がある種類では雄しべは花盤の内側か外側に付着している。花盤は雄しべ的な性質のものから由来したと思われる。子房は 2～5 枚の心皮からなり、各心皮には 3～5 本の維管束が走る。胎座は多くのものは解剖学的には側膜胎座であるが、一部のものには中軸胎座が見られる。*Ctenolophon parvifolius* にははっきりした腹行維管束は見られない。花柱は離生するものから完全に合着するものまであり、一般には背行維管束が入っているが、*Ixonanthes* と *Sarcotheca* の種類では腹行維管束が入る。

○シソクサについて (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: On *Limnophila aromatica* (Lam.) Merr. and *L. chinensis* (Osb.) Merr.

シソクサ属は Philcox 氏のモノグラフ (1969) でよくまとめられていて、大筋は明らかにされたが、細かな点になるとまだ色々問題がある。シソクサもその一である。

シソクサ *L. aromatica* (Lam.) Merr. はインドからニューギニアにまで広がり、東アジアの熱帯から暖帯に広く分布している種類である。ところがインドシナ半島では北部に見られるだけで、一般には分布していないようである。そのかわりここには *L. chinensis* (Osb.) Merr. が普通に見られる。*L. aromatica* と *L. chinensis* とはごく近縁のもので、葉や花の形は全く異なる。ただ前者は茎やがくが無毛か柄のない腺毛が散生するのに対し、後者は茎やがくに長軟毛が散生または密生している点異なる。然し両者が分布しているベトナム北部には中間形が見られ、標本の中には全体殆んど無毛で腺点か散在するが、よく見ると茎やがくに長軟毛が生えている個体 (Hanoi, Pételot, no. 5524, no. 5525, P., Ninh Binh, Bon, no. 739. P. 等) がある。長軟毛の多少も個体により様々で、多いものは問題なく *L. chinensis* になるが、少ないも

のは *L. aromatica* にしてもおかしくない。両者を見る機会の多い中国の学者の中には、別種説に疑問をいだいていると見え、中図植物図鑑 (4. 21, f. 5456, 1975) には、両者は変種関係になりうると書かれている。両者は同一種と見てよいと思う。シソクサはニューギニア、フィリピン、中国中部、南部、台湾、日本に主に分布し、*L. chinensis* はインドシナ半島に分布の中心がある。中国南部、ベトナム北部、スマトラ、ジャワ、ボルネオには両者が分布している。そこでは混在しているのか、分布領域を異にしているのかは不明である。毛の性質以外に大体の分布領域が異なること、また花色はシソクサでは淡桃色から白色であるのに、*L. chinensis* では筒の下部は白く上部と裂片は紅紫色であるなど異なるので、亜種の関係としてあつかいたい。

ベトナム南部からタイ東部には別の型のものがある。茎やがくに密に長軟毛がある点は *L. chinensis* に似るが、葉が厚くてかたく、幅が広く、先が鈍く、表面に短い剛毛が密生している。これも別の亜種として区別してよいと考える。Bonati 氏が新種とし、Philcox 氏が *L. chinensis* の異名にした *L. chevalieri* がそれにあたる。

***Limnophila chinensis* (Osb.) Merr. in Amer. Journ. Bot. 3: 581 (1916),**
Philcox in Kew Bull. 24: 151 (1969), excl. syn. *L. gracilipes* Craib.—
Columnnea ? *chinensis* Osb., Dagb. Ostind. Resa: 230 (1757).

subsp. **chiensis**

Distr. S. China, Vietnam, Laos, N. Thailand, Malay Pen., Sumatra, Java, Borneo, Celebes.

subsp. **aromatica** (Lam.) Yamazaki stat. nov.—*Ambulia aromatica* Lam., Encycl. Méth. 1: 128 (1783).—*Limnophila aromatica* (Lam.) Merr. Interpr. Rumph. Herb. Amb.: 466 (1917), Philcox, l.c. 145 (1969).

Distr. Japan, S. Korea, C. & S. China, N. Vietnam, Laos, Philippines, New Guinea, Micronesia.

subsp. **chevalieri** (Bonati) Yamazaki stat. nov.—*Limnophila chevalieri* Bonati in Bull. Soc. Bot. Genève 15: 110 (1923), & in Lecomte, Fl. Gén. Indo-Chine 4: 376, f. 42; 15, 43; 1-4 (1927).

Distr. S. Vietnam, Laos, Thailand.

1. Stems, pedicels and calyces glabrous or minutely glandular..... subsp. *aromatica*
1. Stems, pedicels and calyces sparsely to densely lanate.
 2. Leaves membranaceous, elliptic, oblong, oblong-lanceolate, generally acute at apex, glabrous or scabrid abovesubsp. *chinensis*
 2. Leaves chartaceous, orbicular, elliptic or ovate-oblong, obtuse at apex, hispid above.....subsp. *chevalieri*